

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 13 日現在

機関番号：30123

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720048

研究課題名(和文)戦後日本の映像芸術史1950～2000：松本俊夫の実験映画・ビデオアートを中心に

研究課題名(英文)History of Post-War Japanese Art Film and Video 1950-2000: Experimental Films and Video by Toshio Matsumoto

研究代表者

阪本 裕文(Sakamoto, Hirofumi)

稚内北星学園大学・公私立大学の部局等・講師

研究者番号：30381908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：当研究課題の目的は、映像芸術を専門とするアーカイブが存在しない日本国内の状況を踏まえて、日本の代表的な映像作家の映像作品と関連資料をデジタルデータ化し、その成果を社会に還元することにある。この目的に沿って、研究代表者は戦後日本の映像芸術を代表する映像作家である松本俊夫の映像作品、計28作品のデジタルデータ化を行った。また、作品に関わる文献・文書資料のデジタルデータ化と、文献・文書資料をもとにした作家への聞き取り調査を実施した。それに併行して、研究成果を社会に還元するために、国内外の美術展覧会や上映会、研究プロジェクトに対する資料提供を行った。

研究成果の概要(英文)：This research aims to digitize the films and related documents of established film makers in Japan, in order to preserve the medium for future generations. Twenty-eight films created by Toshio Matsumoto, a representative filmmaker of Japanese post-war art films, have been digitized. In addition, references and documents have been digitized and interviews with current filmmakers about the data were conducted. The data were then provided to art exhibitions, screening parties and research projects inside and outside Japan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：戦後美術 実験映像 実験映画 ビデオアート メディアアート

### 1. 研究開始当初の背景

以下の文中においては、記録映画・実験映画・ビデオアート・メディアアートなどの、非商業劇映画の領域にあり、現代美術の文脈に関係する映像作品を包括して、便宜的に「映像芸術」として記述する。

戦後日本の映像芸術の諸作品は、8mm・16mmフィルムや旧規格のビデオテープによって制作されることが多く、経年劣化の恐れを抱えている。よって、オリジナルメディアの保存とは別に、高精細なテレシネ(フィルムからビデオへの変換作業)によるデジタルデータ化を進める必要がある。また、映像芸術に関わる文書・文献資料の収集・保存も、長年手つかずの状態にあり、散逸の恐れを抱えている。よって、文書・文献資料についてもオリジナルの保存とは別にスキャンや写真撮影によるデジタルデータ化を早急に進める必要がある。そのような状況にありながら日本国内においては、本研究が対象とするような映像芸術についての包括的なアーカイブが存在しない状態にあった。諸外国の場合、映像芸術を扱うアーカイブ機能を持つ組織が複数存在しているのに対して、日本国内の状況は立ち後れたままであった。よって、日本国内においても映像芸術を扱うアーカイブを組織し、映像作品および文書・文献資料の包括的なデジタルデータ化を進めることが急務であった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に経年劣化の恐れがあるメディアによって制作された映像作品のデジタルデータ化を行うこと、および作品に関わる文献・文書資料の調査とスキャンと写真撮影によるデジタルデータ化を行うことにある。第二に、調査研究の成果としての、デジタルデータ化された映像作品および文献・文書資料を、研究者や研究プロジェクト、または国内外の美術展覧会・上映会に提供することによって、積極的に社会に還元してゆくことにある。それによって、国外の状況と比較して立ち遅れていた、日本国内における映像芸術の研究基盤の確立に寄与することを最終的な目的とする。

### 3. 研究の方法

研究を行うにあたっては、1950年代から前衛的な記録映画の制作を開始し、1960年以降は劇映画を手がけながら、数多くの先駆的な実験映画やビデオアートを制作することによって、戦後日本の映像芸術を牽引してきた作家である松本俊夫を中心的な調査研究の対象とする。その理由は、記録映画、実験映画・ビデオアート・メディアアート、劇映画

といった、広範な映像領域を横断し、戦後日本の映像芸術の展開に決定的な影響を与えてきた松本の活動に着目することで、歴史的な連続性において、戦後日本の映像芸術の状況を浮かび上がらせることが可能になると考えたためである。

本研究に先立って、研究代表者は平成23年度より、予備的な調査を川崎市市民ミュージアム学芸員である濱崎好治、映画研究者である江口浩の協力を得ながら開始しており、この予備的な調査活動をベースとしながら本研究は開始された。まず、フィルム作品については原版の所在と現状を確認する。そして、作家本人が著作権を所有する映像作品、それに加えて作家以外の著作権者から了承の得られた映像作品については、原版からプリントを作成し、作家本人の立ち会いのもと試写を実施する。そして、プリントのクオリティ確認を済ませたうえで、HDテレシネによってデジタルデータ化する。一連のラボ作業は(株)IMAGICA社に発注され、最終的なデジタルデータは1920×1080pixel / 24fps / Prores422のフォーマットにて完成された。ただし、三台の映写機によって投影されるマルチプロジェクションの16mmフィルム作品「つぶれかかった右眼のために」と、三巻に分かれた35mmフィルム作品である「西陣」については、IMAGICA社から納品されたデジタルデータをもとに、研究代表者がデジタル環境において上映用の編集作業を実施した。文書・文献資料については、作家本人の協力のもと分類整理と調査を進め、スキャンおよび写真撮影によるデジタルデータ化を行った。また、それらの文書・文献資料を参照しながら、濱崎・江口をはじめとする研究者と協力し合いながら、長期間にわたる作家本人への聞き取り調査も実施した。

### 4. 研究成果

(1)平成24年度の研究調査においては、以下の研究調査を実施した。

ア.国立近代美術館フィルムセンターや、民間の映像プロダクションが所蔵する松本俊夫の作品原版を調査し、35mm・16mmフィルム作品原版27点の現状を確認した上で、IMAGICA社においてプリントを作成し、作家本人の立ち会いのもと試写を実施したうえでHDテレシネ作業を行い、デジタルデータを作成した。

イ.作家本人が所有する文献・文書資料の提供を受け、内容の確認を行った上でデジタルデータ化を行った。また、それに付随して聞き取り調査も行った。

(2)平成25年度の研究調査においては、以下の研究活動を実施した。

ア．作家本人が所有する作品プリントを調査し、16mmフィルム作品1点の現状を確認した上で、IMAGICA社においてHDテレシネ作業を行い、デジタルデータを作成した。

イ．平成24年度に借用した作家本人から提供を受けた文献・文書資料について、引き続きデジタルデータ化を行った。また、聞き取り調査についても、継続して行った。

(3)これらの研究成果を社会に還元するために、平成24年度から平成25年度にかけて、国内外の美術展覧会・上映会、および研究プロジェクトに対して、積極的に資料の提供を行った。

ア．国内外の美術展覧会・上映会については、「白昼夢 松本俊夫の世界」(久万美術館、平成24年度)、「日本の70年代 1968-1982」(埼玉県近代美術館、広島市現代美術館、平成24年度～平成25年度)、「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」(ニューヨーク近代美術館、平成24年度)、「第17回文化庁メディア芸術祭」(国立新美術館、平成25年度)など。

イ．研究プロジェクトについては、「Post Notes Modern & Contemporary Art Around the Globe」(ニューヨーク近代美術館、平成24年度～継続)、「戦後史の切断面(3)-万博とアヴァンギャルド」(東京大学大学院情報学環 記録映画アーカイブ・プロジェクト、平成25年度)など。特に、「Post Notes Modern & Contemporary Art Around the Globe」は、インターネットを通して研究リソースを広く一般に公開するという方法において、本研究の目的に合致したものであった。ここで本研究は、デジタルデータ化した映像作品9本(「西陣」、「つぶれかかった右眼のために」、「スペース・プロジェクション・アコ」、「メタスタシス=新陳代謝」、「モナ・リザ」、「色即是空」、「アートマン」、「シフト=断層」、「エングラム=記憶痕跡」)の参照用抜粋映像と、文書資料のデジタルデータ6点を提供している。この映像作品と文書資料は、ウェブサイト(<http://post.at.moma.org>)にて閲覧可能である。

このような積極的な資料の提供によって、戦後日本の映像芸術を扱うアーカイブを組織し、研究基盤の確立に寄与するという本研究の目的は達成され、研究期間内において一定の実績を収めたといえる。なお、研究期間の終了後は、特定非営利活動法人戦後映像芸術アーカイブを通して、研究成果を国内外の研究プロジェクトや展覧会・美術上映会に対

して提供してゆく計画である。

(4)この研究調査で得られた成果を活用することによって、研究代表者は論文「変革する主体-戦後アヴァンギャルド芸術と前衛記録映画」を執筆した。この論文は「白昼夢-松本俊夫の世界」展覧会カタログ(町立久万美術館)に収録された。この論文のなかで研究代表者は、松本俊夫の初期の言説を1950～1960年代のアヴァンギャルド芸術や記録性をめぐる議論のなかに布置させ、そこに立脚したうえで1970年代以降の松本の言説にまで射程を拡げて、松本の活動を総体的に論じた。それによって松本の活動が、戦後日本における映像芸術の来歴と深く関わり合いながら、それらを先導し、組織してきたことが明らかにした。また、同展覧会カタログに収録された図版写真や、フィルモグラフィー・書誌リストといった資料データ類も、本研究によって得られた研究成果を活用したものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計1件)

・阪本裕文「変革する主体-戦後アヴァンギャルド芸術と前衛記録映画」、『白昼夢-松本俊夫の世界』pp.21-27、町立久万美術館、2012年

〔その他〕

(1)美術展覧会・上映会への研究成果提供  
・「白昼夢 松本俊夫の世界」、久万美術館、2012年9月8日～11月17日

・「日本の70年代 1968-1982」、埼玉県近代美術館、2012年9月15日～11月11日

・「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」、ニューヨーク近代美術館、2012年11月18日～2013年2月25日

・「Moving Picture Alphabet Series: Collaborations: The Last Clean Shirt, Nishijin, Le Chant du Styrene」、UChicago Arts | The University of Chicago、2013年2月8日

・「Holland Animation Film Festival 2013」、Holland Animation Film Festival、2013年3月20、21、22日

・「日本の70年代 1968-1982」、広島市現代美術館、2013年4月20日～2013年7月7日

・「第 17 回文化庁メディア芸術祭」 国立新美術館、2014 年 2 月 5 日～2 月 16 日

(2) 研究プロジェクトへの研究成果提供

・「Post Notes Modern & Contemporary Art Around the Globe」 ニューヨーク近代美術館/C-MAP、2013 年 1 月～継続

・「戦後史の切断面(3)-万博とアヴァンギャルド」 東京大学大学院情報学環 記録映画アーカイブ・プロジェクト、2014 年 3 月 1 日

6 . 研究組織

(1)研究代表者

阪本裕文 (SAKAMOTO HIROFUMI)

稚内北星学園大学情報メディア学部情報メディア学科講師

研究者番号 : 30381908